

第14回 〈ケア〉を考える会-岡山

■日時： 2014年12月23日(火) 14:00~16:30

■会場：川崎医療福祉大学 本館6階 6001演習室(定員35名)

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php>

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。

エレベーターで6階へ行きますと、降りた正面に案内標識があります。

駐車場を利用の場合は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで反対側)をご利用ください。1時間100円です。

■会費：無料 どなたでも参加できます。気軽にご参加ください。

■テーマ： **被害者救済と福祉 —被害者の立場から—**

発表者：平松邦夫 社会福祉士 (森永ひ素ミルク中毒の被害者)

— 昭和30年夏に起こされた、森永ひ素ミルク中毒事件は、私の生き方に様々な影響をもたらしました。その軌跡と経過から学んだことをお話しし、私自身も考える場になればと思っています。(平松邦夫)

・・・森永ひ素ミルク中毒事件・・・

「1955(昭和30)年の6月頃から8月にかけて、近畿地方以西の西日本一帯で人工栄養児の間に原因不明の病気が集団的に発生しました。罹患した乳児がいずれも森永ドライミルクを飲用していた事実から、岡山大学の浜本教授らによって、MF印のドライミルクを分析した結果、乳児が飲めば亜急性ないしは慢性のひ素中毒を起こす量のひ素が検出されました。」
「被害児の数は1956年6月の厚生省発表によると、12,131名にのぼり、そのうち明らかにひ素中毒と認められた死亡者が130名という、世界でも例を見ない大規模な乳幼児の集団食中毒事件でした。」

(「森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会」ホームページより)

⇒ <http://www.mhbm.jp/cont5/main.html>



■呼びかけ人

大賀由花 (赤磐医師会病院/透析療法指導看護師)

河合清志 (社会福祉士),

小林真美

清水昭雄 (管理栄養士)

田中順子 (川崎医療福祉大学リハビリテーション学科/作業療法士)

林道也 (社会福祉士)

平松邦夫 (社会福祉士)

松川絵里 (カフェフィロ代表/大阪大学 CSCD 特任研究員)

山本広美 (社会福祉士)

■参加申し込み・問い合わせ： 884michiya@gmail.com 090-5366-1497 (林)

できれば事前にお申し込みください。(満席となりお断りする場合にのみ連絡いたします。)

■懇親会(忘年会)……終了後に、会場近くの居酒屋で懇親会を開きます(希望者)

※ ホームページもご覧ください ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>



「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉といえば、「看護」「介護」「支援」「世話」などが先ず頭に浮かびます。超高齢社会を生きる私たちにとって、切実な課題の一つです。

そして、〈ケア〉は、もっと広く捉えることもできます。たとえば広井良典氏は、ケアを「人と人との間の『関係性』という意味に理解してみたい」と述べ、さらに、個人がコミュニティや自然などとつながっていくような方向でもケアを考えます。「『ケアの哲学』とでもいうようなものが必要」とも言っています。

また、鷲田清一氏は「臨床哲学」の重要テーマの一つに「ケア論」を置き、「ケア」の奥深さをさまざまに説いています。

この会では〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で

〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。

〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る〈場〉となることを願います。

▼会では、本を読んだり、または、人の話を聞いたりして、語りあいます。

そして、会の後には、会場近くの居酒屋で懇親会を開きます(希望者)。

学び、語り合い、そして、食べ、飲み、さらに、語り合う。この会は参加者の「つながり」を大切にします。

